



CASSIOPEIA NKANI

Vol. 45, July 2025

CASSIOPEIA—UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



3年間にわたりプロジェクトに貢献してくれたニャンガ専門家の送別会。ルサカ州保健局、ルサカ郡保健局、一次レベル病院（チャワマ、チレンジェ、チパタ、カニャマ、マテロ）のプロジェクト関係者が集いました。

5つの一次レベル病院、感染予防管理（IPC）遵守の持続可能性を見据える

チパタ病院、部門長を対象としたバランス・スコアカード（BSC）レビュー会議を開催

ニャンガ美知子 専門家（病院管理と感染対策）の任期終了



5つの一次レベル病院、感染予防管理(IPC)遵守の持続可能性を見据える

カシオペアプロジェクトは最終年を迎えています。そこで、チャワマ、チレンジェ、チパタ、カニャマ、マテロの5つの一次レベル病院の感染予防管理(IPC)チームは、過去4年間の成果の維持と、2025年の第1・第2四半期に実施した「感染予防管理(IPC)および薬剤耐性(AMR)に関する院内トレーニング」で掲げられた目標とアクションプランの達成に注力しています。

施設で見られた変化: マテロ病院のIPCチームは、IPCチームと委員会の発足以降、IPCの実践が大きく改善したと報告しています。「毎日の施設ラウンド、月例IPC会議、定期的なスタッフ研修を通じて、IPCの実践が体系的かつ一貫して実施されています。手指衛生や廃棄物分別の遵守率が向上し、環境表面(ドアノブ、ベッド柵、医療機器の操作パネルなど)の汚染状況を確認す

るための表面拭き取り検査も定期的に行われています。スタッフのIPCへの意識と当事者意識が高まり、手術部位感染(SSI)を含む院内感染の著しい減少が見られています」と述べました。

チャワマ病院は、スタッフのIPCプロトコルへの理解が深まり、日々の遵守が院内感染発生率に与える影響への認識が広がったと報告しています。

チレンジェ病院も同様の認識を持っており、「委員会会議がデータに基づいて開催されるようになり、IPC遵守に影響を与える課題の追跡と対応が可能になった」と述べています。さらに、「病院執行部がIPCの取り組みを把握・支援しやすくなり、迅速なフィードバックによって費用対効果の高い意思決定が可能になった」と強調しました。



感染予防管理(IPC)の廃棄物分別管理のポスターとゾーニングの実践。チレンジェ一次レベル病院にて。

トレーニングからの学び: チャワマ、チレンジェ、マテロのIPCチームは、トレーニングの中で「多くの受講者がザンビア国内のAMRの広がりを知らず、病院内外でのIPC対策の不徹底がAMRに直接影響していることを理解していなかった」ことに驚いたと話しています。

チームは「標準作業手順の遵守、環境衛生、抗菌薬の適正使用」を強調し、多職種連携アプローチの重要性を参加者に共有しました。

課題への対応: マテロ病院のIPCチームは、課題を踏まえて「IPCラウンド時の監督体制の強化、清掃用品や個人防護具(PPE)の確保、産科や手術室など高感染リスク領域における指導の強化を計画している」と述べています。また、「国のガイドラインに沿った施設独自のIPC標準作業手順書(SOPs)を策定し、標準化を図っている」とも述べました。

チレンジェ病院は手術部位感染(SSI)サーベイランスの新たなチェックリストを導入し、術前・術中・術後のIPC基準の遵守状況を患者ごとに記録しています。さらに、SSI疑いの症例を検査室に明示的に通知できる様式を作成・配布しました。

チャワマ病院は、「全ての学生が診療科に配属される前にIPCオリエンテーションを実施し、施設の各所に屋外ごみ箱も設置して適切な廃棄物管理を推進している」と述べました。

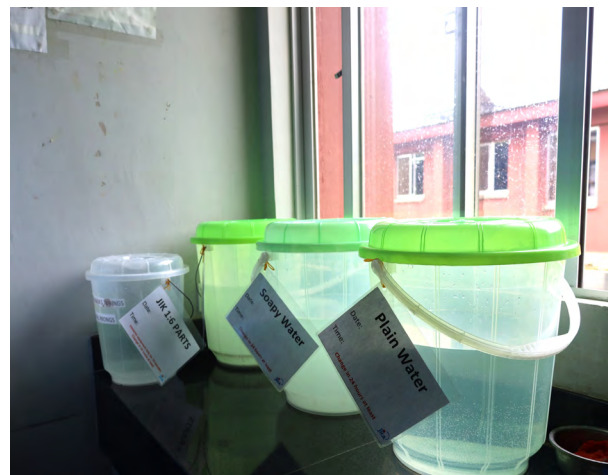
継続への取り組み: チレンジェ病院のIPC担当者、クライド・ウシバントウ氏(環境衛生技術者)は、「職員向けオリエンテーション、IPCラウンド、フィードバックの継続実施をIPCの維持戦略に挙げています。病院執行部メンバーとの対話を通じ、IPC活動への予算配分の調整と確保にも取り組む」と述べています。

マテロ病院の環境保健技術者(EHT)であるエゼキエル・カンコロト氏は、「IPCを病院の質改善計画に統合し、IPCためのリソースの予算化、部門のIPCチャンピオン育成、持続可能な戦略の策定、継続的なモニタリング指標の設定に取り組んでいる」と話しました。

チャワマ病院のプリンス・ブワリャ氏は、「職員へのオリエンテーション、定期的なIPCラウンドや委員会会議、毎月のSSIサーベイランス、微生物検出のルーチン検査を継続する」と述べています。



IPCラウンドを実施するマテロ一次レベル病院のIPCチーム(2025年7月17日)



バケツにはラベル表示が整っている。チャワマ一次レベル病院の洗浄・除染コーナー。

チパタ病院、部門長を対象とした バランス・スコアカード(BSC)レビュー会議を開催

2026年の中期予算計画(MTBP)策定を前に、チパタ病院の計画担当であるカネクワ・ニレンダ氏は、7月31日に部門長(HOD)を対象としたバランス・スコアカード(BSC)レビュー会議を開催しました。

この会議は、新規採用の職員のオリエンテーションと既存職員の再オリエンテーションを兼ねており、部門別のBSC作成に先立ち、BSCの重要性を再認識する機会となりました。BSCは日常業務における課題解決と戦略的マネジメントに役立つツールです。病院全体のみならず、各部門がBSCを作成することで、各部門が自らの進捗状況を追跡・モニタリングする手段にもなります。

会議に出席した部門長らは、「このオリエンテーションはとてもタイムリーであり、2026年の中期予算計画(BTBP)に向けて実行可能で進捗を測定できる戦略目標を設定するのに役立つ」と述べました。

この会議と同日に、チパタ病院の感染予防管理(IPC)チームは月次委

員会会議を開催し、6月のIPCラウンドのフィードバックを行いました。同会議の議長は、IPC担当医のアビゲイル・マランボ医師が務めました。

マランボ医師は、「院内は、廃棄物分別や手指衛生などのIPCプロトコルの遵守・徹底が未だに不十分であり、職員や学生への継続的なIPC研修とオリエンテーションが必要である」と指摘しました。

マタ・マタ病院長は、職員に向けて、部門別BSCの作成を重視するよう促しました。「過去には多くの部門でBSCの活用が途絶えており、目標のモニタリングが行われていなかった」と述べました。またIPCについては、「スタッフの意識改革が必要であり、IPCプロトコル(廃棄物管理、個人衛生、消毒、PPEの適正使用)を遵守しない場合には、担当責任者も含めた説明責任を求めるべきである」とIPCチームに呼びかけ、各種IPCプロトコル遵守の徹底を促しました。



部門長向けバランス・スコアカード(BSC)導入研修で発表を行うカネクワ・ンコマ氏(プランナー)



IPC委員会会議(7月)に参加するIPCチーム: マランボ医師、カペヤ環境保健技術者、ハバニャマIPC看護師。

ニャンガ美知子専門家(病院管理と感染対策)の任期終了

2025年8月1日、ルサカ州保健局(LPHO)、ルサカ郡保健局(LDHO)、対象5病院(チャワマ、チレンジェ、チパタ、カニャマ、マテロ)、およびJICAカシオペアプロジェクトの関係者が集まり、病院管理と感染対策の専門家として3年2か月にわたりプロジェクトに貢献してきたニャンガ美知子専門家の送別会を開催しました。

ピーター・ムレヤ氏(州保健局主任プランナー)は、「ニャンガ氏の技術支援で導入したモニタリングツール、バランスト・スコアカード、IPC委員会の設立と活動、標準作業手順の開発など、彼女の貢献は非常に大きい」と述べ、ザンビアの医療体制への多大な貢献に感謝の意を表しました。

ニャンガ氏は、プロジェクトを通じて関わったすべての人々に感謝の言葉を述べ、「プロジェクト関係者の皆さんが新しい手法やプロトコルを受け入れ、実践してくださったことは、各施設で行ってきた月次・四半期・年次レビューの結果にも表れています。これからも成果を維持する努

力を続けてください」と関係者を激励しました。さらに、「引き続き、全てのザンビアの人々に対し、質の高い公平な医療の提供に向けた取り組みを続けてください」と結びました。

ニャンガ専門家の活躍により、プロジェクトは、病院マネジメントの根幹となるバランスト・スコアカード(BSC)の導入を推し進めることができました。また、感染予防管理(IPC)においても、ザンビアで長年取り組まれてきた衛生を入り口としながらも、感染予防対策に包括的に取り組めるIPCチームの設立とIPC委員会の活性化、IPCラウンドの実装、IPC実践の標準作業手順の作成、全職員を対象としたIPC研修を関係者とともに推し進めてくれました。

特に任期終盤は、上位目標を意識した定着活動にも注力し、対象5病院を超えた病院マネジメントとIPCの実践の展開可能性を関係者に示してくれました。

この足跡を礎に、プロジェクトは最終フェーズへと進んでいます。



ニャンガ専門家への記念品贈呈。ムレヤ氏(ルサカ州保健局主任プランナー)とンジョオモナ氏(同、人的資源管理部門)より。



任期満了に伴い関係者へ感謝の言葉を述べるニャンガ専門家。

PHOTO FOCUS



ニャンガ専門家とチャワマ一次レベル病院のIPCチーム。



ニャンガ専門家とバウレニ・ミニ病院のIPCチーム。



ニャンガ専門家とチェルストン・ミニ病院のIPCチーム。



ルサカ州保健局のサカラ氏(シニア環境保健担当官)とIPC、SSI、AMR研修資料を確認する様子。



ニャンガ専門家とチパター一次レベル病院のIPCチーム。



ニャンガ専門家とチレンジェ一次レベル病院のIPCチーム。



ニャンガ専門家とルサカ郡保健局の感染予防管理(IPC)チーム。左から齋藤悠専門家(業務調整兼IPC)、シアンチャバ医師(臨床ケア専門家、チゾンゴ氏(シニア環境保健担当官)、ジンバ氏(環境保健担当官)、ムヤンバンゴ氏とラバン氏(薬剤師)。

編集・デザイン: コンベ カパタモヨ
編集長: 村井 真介

連絡先
村井 真介 ルサカ郡病院運営管理能力強化
プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,
Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101,
ZAMBIA

Cell: +260 765 192 865 (official)